

2018年12月4日

目次

■ 脱脂粉乳・全脂粉乳情報	脱脂粉乳、上昇の兆しか	p. 2-3
■ バター情報	欧州産価格続落	p. 3-4
■ カゼイン情報	穏やかに相場上昇	p. 4
■ チーズ情報	2017年世界のチーズ生産量は増加	p. 5
■ ホエイ情報	価格高止まり	p. 5-6
■ 乳糖情報	世界的に右肩上がりつつく	p. 6-7
■ 国内情報	北海道の生乳生産回復基調	p. 7-8
■ 主要生産国の現行乳価		p. 9
■ オセアニア情報	LDD社の買収合戦	p. 9-10
■ 欧州情報	英国、廃棄牛乳削減への努力	p. 11
■ 米国駐在員情報	韓国における米国産チーズシェア	p. 12-13
■ 出典		p. 14

■ 粉乳情報

■ 脱脂粉乳、上昇の兆しか

欧州

直近2ヶ月は軟調に推移していた欧州産脱脂粉乳の相場は、上昇に転じた。アフリカや中国向けにフレッシュ品(新規製造品)の引き合いが増えたことが価格に影響している模様。既に、来る2019年第1四半期積みの供給がタイトになっているサプライヤーも確認できる。毎月行われている政府介入在庫入札は11月22日付け、8万5,127トンが放出入札に付され、2万6,082トンが落札された。最低落札価格はEUR1,313/mtまで上昇、2018年で一番高い水準となっている。

同在庫の放出・落札は順調に行われ、次回12月13日からは現在残っている16万3,127トン全てが放出対象となる。この中には2017年12月に政府によって買い上げられた、比較的新しい在庫も含まれていることから、最低落札価格は更に引き上げられる可能性も考えられる。

欧州産全粉乳は域内消費が殆どで、オセアニア産に比べ価格競争力に劣る為、輸出向けは限定的。価格差も更に広がる状況となっている。

オセアニア

オセアニア産の脱脂粉乳の相場は地域によって状況が異なる印象を受ける。乳量が順調なニュージーランドについては先月とほぼ同じレベル、またはやや弱含み。干ばつの影響が心配される豪州では先月と同じレベル又は若干の上昇が確認できる。サプライヤーは利益率の高い全粉乳やチーズの製造に重きを置いている様子

全粉乳の供給はニュージーランドが大部分を占めており、価格も下落傾向。19年第1四半期積みの引き合いが活発さを見せている。

最新のGDTの結果は下記の通り。脱脂粉乳・全粉乳共に下落。

(2018年11月20日開催、同年11月6日比較)

脱脂粉乳: USD 1,965/mt FAS (船側渡し価格)、-1.6%

全粉乳 : USD 2,599/mt FAS (船側渡し価格)、-2.1%

米国

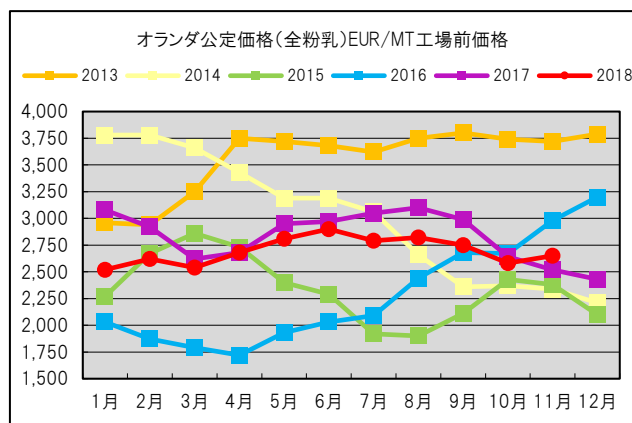
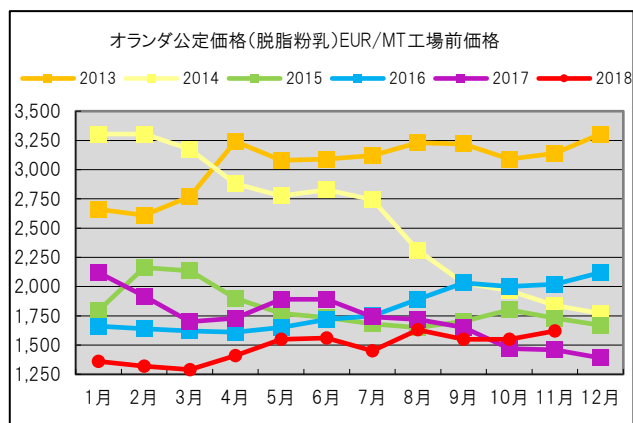
米国のNFDM*の価格は欧州産、オセアニア産につられる形で上昇。一時期と比べ在庫も減少し、大凡通常レベルまで戻している模様。(その他、生乳生産量推移等は米国駐在員情報を参照)

*NFDM: Non Fat Dry Milk (たんぱく非調整脱脂粉乳)

今後の展望

脱脂粉乳はやはり今後の欧州産の放出入札の結果が気になるところ。直近過去3回の放出入札では、毎回2万トン以上が落札されている。サプライヤーが価格をなかなか上げ辛い要因の一つとなっていた政府介入在庫が急激に減少してきたことから、今後価格が上昇するとの見方をする関係者も少なくない。早めの検討が肝要と考える。

全粉乳については引き続きオセアニア産に期待。一方、通常第2四半期は季節柄供給がタイトになる傾向があり、需要も第1四半期に偏る可能性があることから、脱脂粉乳同様早めの確保に努めたい。



現在の粉乳取引価格

EU産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 2,100 – 2,400 /MT CFR ASIAN PORT
EU産全粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 3,300 – 3,800 /MT CFR ASIAN PORT
オセアニア産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 2,050 – 2,350 /MT CFR ASIAN PORT
オセアニア産全粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 2,950 – 3,250 /MT CFR ASIAN PORT
米国産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 2,100 – 2,300 /MT CFR ASIAN PORT

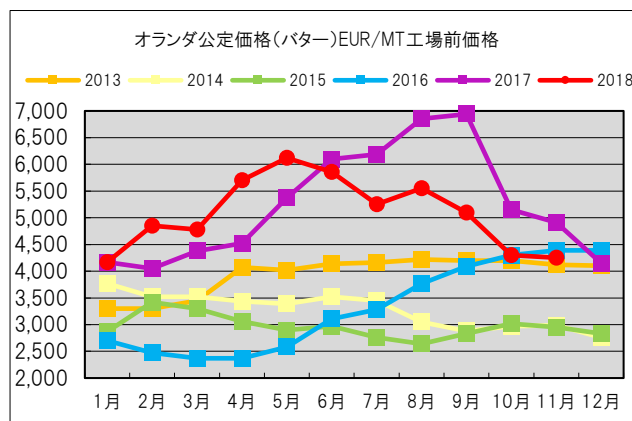
<清水>

■ バター情報

■ 欧州産価格続落

欧州

欧州の乳脂肪相場は前月に引き続き、軟化しているが、依然他主要産地との価格差は大きい状況が続いている。域内の乳脂肪に対する需要は引き続き強い。バターの製造者は年末にかけて強くなる消費者向けの個包装バターの製造に注力している状況。1～9月のバター製造量は昨年同時期比、1.6%増加しているが、輸出量は11%減少しており、中国向けの輸出は30.6%減少している。



オセアニア

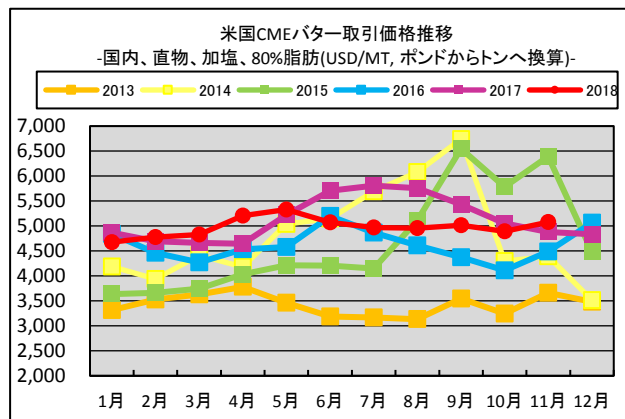
11月のGDTオークションの結果はバター、AMFともに値下げとなっている。2018年11月20日のバター平均落札価格はUSD3,637/MT FAS(船側渡し)となり、10月16日の結果(USD4,114/MT FAS)と比較すると11.5%の値下げとなった。AMFも同様に11月20日の平均落札価格はUSD4,577/MT FASとなり、10月16日の結果(USD5,106/MT FAS)と比較すると、10.4%の値下げとなった。

豪州の2018年7～9月の生乳生産量は昨年同時期比、3.3%減少している。2018年1～9月の豪州バターの輸出量は昨年同時期比、19.4%減少している。

一方ニュージーランドの生乳生産は好調で、2018年1～9月のバター輸出量は昨年同時期比、11.6%増加、中国向けについては42.4%増加している。また豪州向けの輸出量も29.7%増加している。

米国

10月の米国生乳生産量は昨年同月比、0.8%増加しており、2018年の生乳生産量は2017年と比較すると、+1.2%になると見込まれている。2018年10月末のバター在庫量は昨年同月比、5.9%多い。2018年のバター生産量は2017年比較、2.6%増加すると見込まれている。



2018年8月のバター取引価格

(換算レート EUR/USD1.17)

EU産バター価格	USD5,500~USD6,000/MT CFR ASIAN PORTS
NZ産バター価格	USD3,800~USD4,300/MT CFR ASIAN PORTS
豪州産バター価格	USD5,000~USD5,500/MT CFR ASIAN PORTS
米国産バター(無塩 82%脂肪)価格	USD4,800~USD5,300/MT CFR ASIAN PORTS

<林>

■ カゼイン情報

■ 緩やかに相場上昇

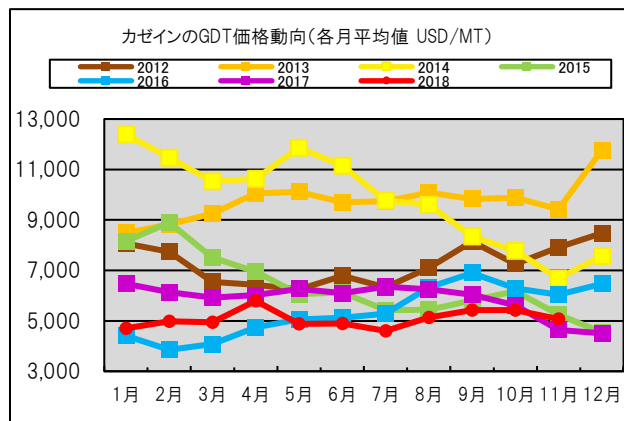
カゼイン相場は、緩やかながら引続き上昇した。

供給面では、主要産地の一つであるニュージーランド(NZ)の10月の生乳生産量が、天候にも恵まれ、昨年対比6.5%増となり好調であった。しかし昨月同様、生乳を優先的に全粉乳の製造へと使用する動きが強く、結果として、カゼインの生産は伸び悩んだ。また、もう一方の主要産地である欧州では、夏場の猛暑による影響で落ち込んだ生乳生産量を取り戻すのは難しく、カゼインの生産の増加は見られなかった。

今後については、主要産地の一つであるNZが生乳生産のピークに入っていることから、大幅な相場上昇は考えにくいものの、一部地域では水不足が明らかとなっており、この点が生乳生産へ悪影響を及ぼす可能性もある。相場の上昇要因に繋がる恐れもあり、今後のNZの天候には注視していくことが重要になってくるであろう。

レンネットカゼインのGDT 過去3カ月の落札価格

入札日	カゼイン(単位:MT)
2018年9月4日	USD5,326
2018年9月18日	USD5,421
2018年10月2日	USD5,552
2018年10月16日	USD5,426
2018年11月6日	USD5,327
2018年11月20日	USD5,067



<柴崎>

■ チーズ情報

中国のチーズ輸入 減速

中国の9月の乳製品輸入統計が発表され、チーズの輸入量は前年比6.4%減の5,409トンであった。1月からの累計数量は前年比で4.3%落ち込んでおり、この数年で前年比二桁増を更新し続けていた中国に陰りが見え始めている。米国との貿易摩擦による対米ドルで元安の影響も要因であると考えられる。

フレッシュチーズの1月から9月までの累計輸入数量は昨年比10%減の3万2,263トンで、主にNZ産が減少した。

粉チーズの9月までの累計輸入数量は昨年比15%増の2万340トン。最も増加した米国産は27.6%増であった。

2017年の世界のチーズ生産量は増加

IDF(国際酪農連盟)によれば、2017年の世界全体の生乳生産量は2016年比2.2%増の6億9,610万トンであった。フランスとドイツでは酪農家の採算性が改善されたにも関わらず生乳生産量が減少し、オランダではリン化合物の排出規制による影響で同じく減少した。一方で、アイルランドでは生乳生産量が増加し、英国(UK)においては2016年に落ち込んだ分が回復した。

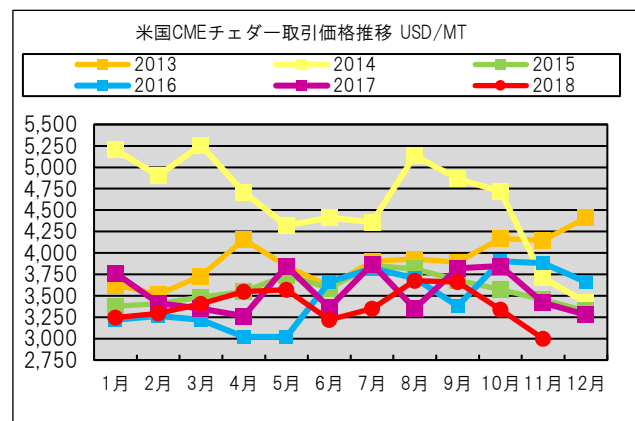
2017年の各地域における生乳自給率は次の通り。オセアニア:289%、アジア:90%、EU:113%、北米:109%、南米:100%、中米:79%、アフリカ:84%。

また、2017年の世界全体のチーズ生産量は2016年比2.6%増となる2,110万トンであった。地域別で見るとEU全体で0.7%増の924.5万トン、米国は3.9%増の574.2万トン、アルゼンチンは8.0%と大幅増の57.8万トンであった。

米国CME相場

2018年11月のCMEブロックチェダー スポット相場は月末30日時点でUSD3,000/MT(現地工場出し価格)であり、10月末からUSD300/MT以上の大幅な下落となっている。11月上旬から中旬にかけて下落し、その後4週目の感謝祭が明けてからは若干上昇基調に転じ始めてはいるものの、依然として低調に推移している。

米国産チェダーは他地域よりも価格競争力がある状態が続いているが、米国駐在員情報の通りチーズの生産量・在庫量ともに好調であり、年末需要が一服した後、年始にかけても引き続き価格競争力のある状況が続くと予想される。



<近藤>

■ ホエイ情報

ホエイパウダー

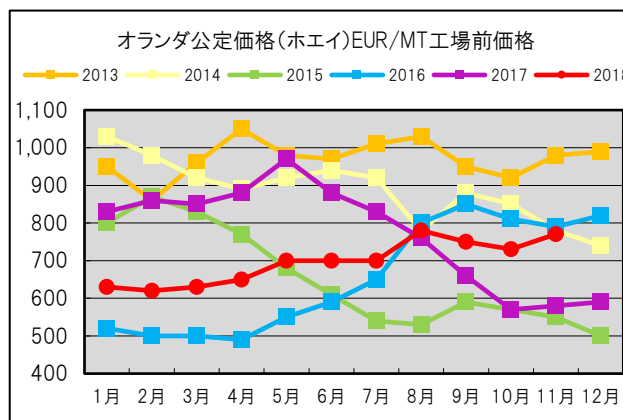
米国産ホエイパウダーの相場は前月と変わらず高値圏で推移している。価格が高止まりとなっているため、

米国国内需要者においては買い控えが起きている模様。外国為替市場において、米ドルが主要通貨に対して全面高となっている影響から、海外需要者からの引合も弱まっている。当面の価格は高値圏で推移する見通し。

米国産ホエイパウダーの2018年1月～9月輸出量は、前年同期比13%増の17万3,019トン。同時期の国別の輸出量は、中国向けが約6万4,377トン(前年同月比9%減)、フィリピン向けが約1万3,484トン(同比24%増)、ベトナム向けが約1万2,031トン(同比211%増)、日本向けが約1万1,668トン(同比23%増)、メキシコ向けが約1万1,622トン(同比9%増)であった。

中国による追加関税の影響により、中国に対する輸出量は前年同月比減となっているが、依然として一定数量が輸出されている。中国が米国産ホエイパウダー最大の輸出相手先であるという状況も変わっていない。中国向けの輸出量が更なる減少となった際は米国産ホエイパウダー相場に影響が出てくる可能性があるため、引き続き米中の貿易摩擦の動向には注視が必要である。

欧州産ホエイパウダー相場は、概ね前月と同水準で推移している。製造者の在庫水準も適正水準となっており、暫くはレンジ内での価格推移が見込まれる。



WPC34

米国産 WPC34 の相場も前月と変わらず高値圏で推移している。年度末に向けて在庫を積み増す目的で育児粉乳用途等への引合いは増えたが、取引量は限定的。大幅な価格変動要因も見当たらず、引き続き高値圏で推移するものと予想される。他方、数量面を見ると、供給量は絶対量としては少ない状況ではあるものの、需要を満たすには十分であり、需給はバランスが取れている状況となっている。

<土屋>

乳糖情報

米国産乳糖 在庫水準回復には時間が必要

欧州

欧州産乳糖相場は、右肩上がりが続いている。生乳生産量は前月対比では若干増加しているものの、昨年対比では減。そのため、チーズ生産自体も振るわず乳糖生産も大きな回復は見られなかった。需要面では、前月同様脱脂粉乳たんぱく調整用途での需要が一服しているのに対し、育児粉乳用途・冬季製菓需要が盛り上がってきた。また、米中貿易摩擦の影響により、一部ユーザーでは米国産から欧州産乳糖への切り替えを始めている模様。結果相場は前月比較上昇を見せている。

今後については、穀物・飼料価格が上昇してい

	2017	2018	(%)
オランダ	6,185	5,223	-15
フランス	1,347	979	-27
ドイツ	14,310	10,957	-23
カナダ	2,665	3,197	20
米国	36,539	38,062	4
豪州	0	0	-
ニュージーランド	2,801	2,705	-3
その他	1,681	1,681	-4
合計	65,528	62,741	-4

ることから生乳生産がどこまで回復を見せるか不透明であること、また乳糖の最需要期に差し掛かるタイミングでもあることから引き続き相場は堅調に進むものと考えられる。

米国

米国産乳糖相場は、緩やかに上昇をした。供給面を見ると、生乳生産量は僅かながら増加した。しかし、チーズ生産は前月比 2.0%減となり原料ホエイの供給は減少した。よって、乳糖生産量も前月比 6.8%減の 3 万 9,916 トン、乳糖在庫量も前月比 5.1%減の 3 万 8,334 トンとなった。また需要面では、特に他産地への置き換えが難しい中国等向けの育児用粉乳用途での乳糖需要が好調なことに加え、脱脂粉乳のたんぱく調整用途での乳糖需要が依然として強い。結果、米国産乳糖のタイト感は継続している。

今後、供給面では、原料ホエイをホエイパウダーの生産から WPC80 や WPI などの高たんぱくホエイ製品と乳糖の組み合わせへ優先的に使用する動きがみられることから、乳糖の生産量増加の兆しが見え始めている。また、乳糖相場も上昇しており各メーカーの生産意欲増加も期待される。需要面では、現時点では米中貿易摩擦の大きな影響は出ていないものの、複数ユーザーで徐々に米国産から別産地へ切り替える動きが見られている。よって、今後需給バランスが崩れ、相場の潮目が変わる可能性がある。しかしながら、タイトな在庫状況が改善されるには時間を要することが考えられ、在庫が一定水準に回復するまで相場は緩やかに上昇することが予測される。

米国からの乳糖輸出量累計(2018年1-9月)

1. 中国	76,892 トン
2. メキシコ	34,442 トン
3. 日本	34,189 トン
4. ニュージーランド	33,061 トン
5. インド	14,887 トン
6. ベトナム	14,705 トン
7. 韓国	13,080 トン
輸出量総計	309,965 トン

米国の乳糖生産量と在庫量(2018年9月)

乳糖生産量	39,916 トン	前年比 7.4 %減	前月比 6.8%減
月末在庫	38,334 トン	前年比 44.8%減	前月比 5.1%減

<作田>

国内情報

北海道生乳生産量は回復基調

生乳生産

農林水産省が発表した 2018 年 10 月の全国生乳生産量は 59 万 6,526 トン。前年同月比 0.7%減、前月に引き続き前年を下回った。地域別では北海道が 32 万 8,070 トンで同 0.8%の増である一方、都府県は 30 万 2,051 トンで同 2.4%の減となった。北海道胆振東部地震の影響から、9 月の北海道生乳生産量は前年同月比 4.7%減であったが、10 月に入り回復基調であることがわかる。

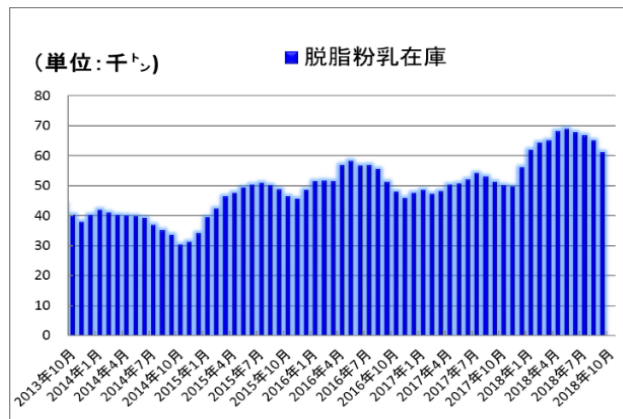
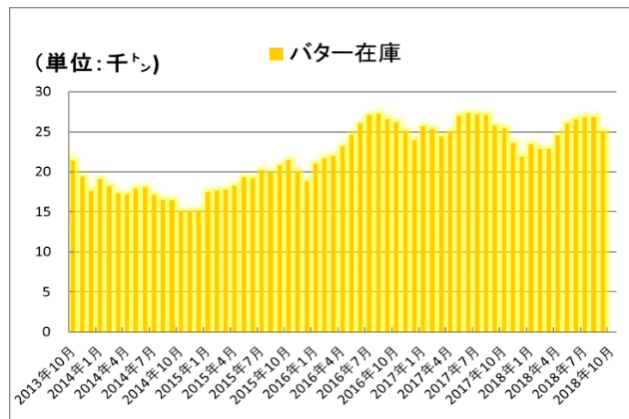
バター

農林水産省が発表した 2018 年 10 月のバター生産量は、3,760 トンで前年同月比 9.8%減、在庫量は 2 万 3,395 トンで同 8.2%減となっている。農畜産業振興機構(ALIC)は、11 月 15 日に 1,500 トンの SBS 入札を実施。応募数量は 7,401.4 トンで競争倍率 4.93 倍となり過去 3 年で最大の競争倍率にて全量落札となった。売渡結果の落札平均価格は 105 万 9592 円/MT。国内生乳生産量が減少の一途をたどる一方、牛乳・クリーム需要は堅調であり、来年以降の原料乳調達は不透明である。そのような状況の中、国産業務用バターの値上げや販売制限が加速していると言われており、より一層来年以降のバター確保のため、輸入品の手当てを急ぐユーザーが増

えていると考えられる。尚、当初11月、12月のバター入札はそれぞれ1,000トンの予定であったが、需要を満たすため、各月1,500トンに変更されている。

脱脂粉乳

農林水産省が発表した2018年10月の脱脂粉乳生産量は7,811トン。前年同月比12.4%減となるが、在庫量は5万8,356トンで同16.4%と前月に続き大幅増となっている。ALICは、10月25日に6,000トンのSBS入札を実施。応札数量は4,228トンで競争倍率0.70倍、落札数量は4,156トンで落札率は69%となった。売渡結果の落札平均価格は、51万3,297円/MT。本年は2月・4月・6月・10月と、隔月で行なわれている入札の落札率は、いずれも100%を下回っている状況であり、在庫は潤沢との見方が強い。



2018(平成30)年度 単月生乳生産量 (単位:千トン)

	生乳生産量	牛乳等向け		乳製品向け	その他
			内業務用		
10月	597	355	33	238	4.1
前年同月比	99.33%	102.31%	106.45%	95.58%	97.62%

2018(平成30)年度、バターの需給予想(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第1四半期	16,613	99.1%	18,791	120.3%	26,500	97.0%	4.1
第2四半期	12,736	101.1%	14,136	92.0%	28,300	104.6%	4.4
第3四半期	12,260	91.1%	20,460	75.3%	23,300	106.2%	3.6
第4四半期	17,200	99.6%	17,500	92.4%	26,200	102.8%	4.1
合計	58,809	97.9%	70,887	92.0%	26,200	102.8%	4.1

在庫量はカレントアクセスによる輸入バター(民間)を含む

2018(平成30)年度、脱脂粉乳の需給予想(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第1四半期	32,103	98.3%	23,219	63.4%	66,900	124.6%	5.4
第2四半期	25,509	100.9%	41,609	115.9%	58,700	110.6%	4.7
第3四半期	27,511	90.9%	36,511	118.7%	57,600	102.7%	4.6
第4四半期	33,300	99.7%	35,400	78.0%	63,400	126.5%	5.1
合計	118,423	97.4%	136,739	92.0%	63,400	126.5%	5.1

在庫量はカレントアクセスによる輸入脱脂粉乳(民間)を含む

<白井>

■ 主要生産国の現行乳価

	円換算乳価※1	適用期間	直近の乳価
日本	¥98.80/ℓ	2018年9月	¥95.83/kg※2
ドイツ	¥46.76/ℓ	2018年9月	EUR35.43/100kg
オランダ	¥48.83/ℓ	2018年9月	EUR37.00/100kg
アイルランド	¥44.09/ℓ	2018年8月	EUR33.41/100kg
米国	¥42.89/ℓ	2018年9月	USD16.70/100ポンド (100ポンド=45.3592kg)
豪州	¥36.19~36.81/ℓ	2018/19年度	AUD5.85~5.95/100kg MS(乳固形kgあたり)※3
NZ	¥35.76~37.19/ℓ	2018/19年度	NZD6.25~6.50/100kg MS(乳固形kgあたり)

※1 生乳1リットルあたりに換算した概算価格。生乳比重は1.031で計算。

※2 総合乳価。用途別に異なる乳価の総加重平均の価格で、実際に酪農家に支払われた乳代。消費税抜き。

※3 為替レート EUR=¥129.00 USD=¥113.00 AUD=¥83.00 NZD=¥78.00

<出典> 日本:農畜産業振興機構 HP EU:European Commission HP 米国:CLAL HP 豪州:当社調べ NZ:Fonterra HP

■ オセアニア情報

Lion Dairy and Drinks社(LDD社)の買収競争

LDD社のブランド Dare 及び Farmers Union は豪州乳飲料市場では49%のシェアで業界一位、また豪州高級テールチーズ市場でも South Cape、King Island Dairy、Tasmania Heritage などのブランドで31%のシェアを持っており、やはり業界一位である。加えてヨーグルトでも多くのブランドを持ち豪州シェアトップの27%、またフレッシュジュース、常温流通ジュースでもそれぞれ20%程度のシェアを持っており、これらの豪州国内でのシェアの高さは国内外の多くの企業の関心を集めている。LDD社の株式市場での価値は約18億豪ドル(約1,500億円)と言われ、今後ドイツ銀行が主導で二段階の入札を実施すると予定されている。

現在興味を示している企業は多数に上ると思われ、乳業会社ではカナダ Saputo 社、豪州 Bega 社、フランス Lactalis 社、中国 Yili 社、飲料会社では Coca-Cola 社、アサヒ HD 社、さらにその他投資会社の名前が挙がっている。

カナダ Saputo 社に関しては、WCB 社と旧 MGC 社を買収しており、今回の買収入札に参加する場合、豪州乳製品市場シェアを独占する形になる為 ACCC(豪州公正取引委員会)からの調査が入ると予想される。Bega 社に関しては、2017年に Mondeleze 社から豪州国民食のベジマイト、ピーナッツバター、サラダドレッシングのブランド製品を約450億円で買収しており、また今年には旧 MGC 社工場のうち最大の Koroit 工場を約250億円で買収している為、今回の LDD 社を買収する為の資金調達に苦労すると予想されている。Coca-Cola 社に関しては飲料ブランド以外の乳製品工場を運営できるのかという点に違和感を持つ業界関係者も多く、LDD 社を買収した後にタスマニアにあるチーズ工場(Burnie 工場)を乳業会社に売却するのではないかと予想されている。アサヒに関しては公のコメントは発表されていないものの豪州業界紙では、投資銀行ロスチャイルド社をアドバイザーに指定し、入札参加の登録を済ませたとみられている。

Dairy Australia、2017/18年度の豪州酪農業界の概況を発表

豪州の昨シーズン(2017年7月~2018年6月)の概況が発表された。豪州生乳生産量は約929万トンで、そ

の生乳の36%がチーズ、27%牛乳及び乳飲料、23%脱脂粉乳及びバター、6%全脂粉乳、8%その他乳製品の製造に使用されている。その全乳製品の内36%が輸出向けとなっている。主要輸出先の順位及び数量は、中国約23万トン、日本約10万7,000トン、シンガポール約7万7,000トン、マレーシア約6万トン、インドネシア約5万6,000トンとなっている。シンガポールの数量はほとんどが粉乳であり、調製品となって最終的には日本に輸入されていると思われるが、それらを合わせても中国の豪州乳製品輸入量には追い付かなくなった。日本の約10万7,000トンの大半がチーズとなっている。豪州の主要乳製品生産量は、チーズ約37万8,000トン、粉乳約27万3,000トン、バター約9万3,000トンとなっている。

－豪州ビクトリア(VIC)州の降雨量 2018年11月27日現在 (mm)－

	9月降雨量	昨年同月降雨量	平年	平年比
Tatura (北部)	40.8	41.8	39.3	+3.8%
Warmambool (西部)	41.2	59.4	51.1	-19.4%
Bairnsdale (東部)	69.2	19.4	72.6	-4.7%
Albury (北東部)	69.8	53.2	61.7	+13.1%
Melbourne	97.2	46.0	64.1	+51.6%

－ニュージーランド(NZ)主要都市の降雨量、2018年10月 (mm)－

	8月降雨量	昨年同月降雨量	平年	平年比
South Auckland (北島)	73.8	記録なし	85.7	-13.9%
Taranaki (北島)	82.2	56.2	113.0	-27.3%
North Canterbury (南島)	78.4	69.0	54.0	+45.2%
Southland (南島)	76.6	59.1	96.0	-20.2%

－豪州生乳生産量－

単位：百万リットル

	2018年9月(前年同月比)	2018年7月～累計(前年同時期比)
NSW	94.6 (-10.2%)	276.4 (-8.8%)
Victoria	583.9 (-4.0%)	1,485.9 (-3.4%)
Queensland	32.7 (-10.5%)	100.0 (-8.9%)
South Australia	46.8 (+7.7%)	123.8 (+5.8%)
Western Australia	33.7 (-0.5%)	95.3 (-1.5%)
Tasmania	83.6 (+7.1%)	150.5 (+5.0%)
Australia	875.3 (-3.3%)	2,231.8 (-3.3%)

－ビクトリア(VIC)州の地域別生乳生産量

単位：百万リットル

	2018年9月(前年同月比)	2018年7月～累計(前年同時期比)
東部	204.3 (-1.0%)	471.8 (-0.4%)
北部	161.4 (-13.7%)	416.7 (-8.8%)
西部	218.2 (+1.7%)	597.3 (-1.6%)
ビクトリア(VIC)州全体	583.9 (-4.0%)	1,485.9 (-3.4%)

(為替レート AUD=¥83.00 を使用)

<メルボルン駐在 Lacto Oceania Pty Ltd. 松本>

■ 欧州情報

EU政府 脱脂粉乳介入在庫売り渡し・買い入れ状況

11月には2度、脱脂粉乳介入在庫の放出入札が実施された。

11月6日に行われた1度目の入札では、入札対象数量15万9,686トンに対して6万2,887トンの応札があり最低落札価格はEUR1,251/MTで3万68トンが落札となり、11月20日に行われた2度目の入札では入札対象数量13万471トンに対して8万5,127トンの応札があり最低落札価格はEUR1,313/MTで2万6,082トンが落札となり、合計落札数量は5万6,150トンと月別落札数量で過去最高を記録した。買入札は実施されなかった。

次回入札は12月11日に実施され、対象数量は16万3,127トンを予定している。

EU介入在庫放出入札結果(単位:MT)

入札日	入札対象数量	応札数量	落札数量	応札価格	最低落札価格
2018年1月16日	101,061	25,764	1,864	EUR 700-1,350	EUR 1,190
2018年2月20日	99,196	35,465	4,337	EUR 650-1,270	EUR 1,110
2018年3月20日	95,079	37,712	4,127	EUR 501-1,121	EUR 1,050
2018年4月17日	90,952	91,855	24,066	EUR 501-1,705	EUR 1,051
2018年5月15日	115,112	124,360	41,958	EUR 500-1,277	EUR 1,155
2018年6月19日	144,844	39,836	23,532	EUR 995-1,400	EUR 1,195
2018年7月17日	121,315	27,768	2,408	EUR 958-1,200	EUR 1,125
2018年8月28日	118,907	64,207	31,493	EUR 905-1,401	EUR 1,230
2018年9月18日	154,797	52,325	8,983	EUR 1,045-1,350	EUR 1,230
2018年10月2日	145,814	36,812	2,499	EUR 1,050-1,280	EUR 1,230
2018年10月16日	143,315	61,355	29,778	EUR 1,050-1,300	EUR 1,231
2018年11月6日	159,686	62,887	30,068	EUR 1,095-1,327	EUR 1,251
2018年11月20日	130,471	85,127	26,082	EUR 1,223-1,401	EUR 1,313

■ 英国における牛乳廃棄に関する調査

政府、企業、地域社会と協力して資源効率を改善するための実用的な解決策を提供するWRPAは、英国で廃棄される牛乳の量とその削減方法を調査した報告書を発表した。報告書によると英国では年間33万トンの牛乳が廃棄されておりその内の90%は家庭内での発生で、残り10%は輸送中や小売店での容器の破損によるものであるとしている。同報告書では、家庭の冷蔵庫の温度が0~5度となっていることの確認・牛乳パックへの温度感知ラベルの使用・牛乳の賞味期限を現状より1日長く設定、などの対策を講じることで廃棄量を9万トン削減し、4,000万ポンドのコスト削減出来ると推定している。

＜アムステルダム駐在 Lacto Europe B.V.吉田＞

■ 米国駐在員情報

■ 韓国のチーズ輸入量における地域・国別シェア

韓国は米国産チーズの輸出にとって重要なマーケットのひとつであり、近年スナックチーズと呼ばれ若年層の栄養補助食品として、或いは大人がお酒と一緒に楽しむおつまみとして供されるカテゴリーの伸長がめざましい。

2012年に発効された米韓 FTA によって輸出機会を得た米国産チーズは関税率の漸減と関税割当の漸増により輸出量を伸ばしてきた。韓国との FTA は EU が米国に先んじて 2011 年に発効、その後ニュージーランドや豪州との FTA も 2016 年に発効した。2017 年、韓国のチーズ輸入量に占める米国産のシェアは 36.5% で第一位であった。ちなみに 2016 年におけるシェアは 49.2% で大半はモザレラチーズが占めていると思われる。2018 年 1-10 月累計での韓国チーズ輸入量の比率は米国産チーズが 43.5% (4 万 6,050 トンで前年同期比 9.4% 増)、EU 産が 30.9% (3 万 2,699 トンで前年同期比 15% 増)、オセアニア産が 24.9% (2 万 6,343 トンで前年同期比 4.5% 増) となっている。

■ 9月の米国産乳製品輸出

9月の米国産乳製品輸出は国際相場と比較競争力が有った事から全体としては好調に推移し、物量ベースでは前年同月比 8.2% 増、金額ベースでは 4.6% 増となった。しかしながら主要輸出先である中国とメキシコ向けは両国によって課せられた関税障壁により減少している。

チーズの輸出量は前年同月比 9% 減の 2 万 4,607 トンに留まった。このうちメキシコ向けは 5,900 トンを僅かに上回る程度で前年同月比 10% 減となった。また、韓国向けは好調であったものの、日本向けは前年同月比 21% 減、オーストラリア向けは 36% 減と落ち込んだ。中国向けに関しては、チーズは前年同月比 63% 減と大幅に落ち込んだものの、乳糖は前年同月の倍近い 636 トンが輸出された。

ホエイパウダーの輸出量は前年同月比 13% 減の 1 万 5,981 トン。中国向けはこのうちの約 1/3 を占めているものの、前年同月比では 14% 減、2018 年累計では前年同期比 9% 減となっている。

脱脂粉乳の輸出量は前年同月が極端に少なかった事もあって 31% 増の 5 万 2,619 トンと好調に見えるが、今年に入ってからの単月の数字として最少となっている。最大輸出相手国であるメキシコ向けは前年同月比 43% と大幅に増加した。続くフィリピン、インドネシア向けに関してはいずれも前年同月比 2 倍以上の伸びを記録している。

たんぱく質濃縮ホエイ(WPC)の輸出量は、たんぱく質含有量 80% 未満のもので前年同月比 19% 増の 1 万 1,759 トンとなった。このうち中国向けは前年同月比 5% 増であったが、前月比では 30% 減となっている。

9月のバター輸出量はメキシコとカナダ向けの輸出が好調であった事から急増し、前年同月比 3 倍近い 3,768 トンとなった。輸出量は前者が 1,680 トン(662%)、後者が 1,249 トン(151%)。また、モロッコ、日本、シンガポール向けの輸出量も前年同月比で増加した。米国はバターの輸入国でもあり、9月の輸入量は 5,357 トンとなった。アイルランド産が全体の 69.5% を占めており、前年同月比では 53% 増となった。

■ 10月の生乳生産量

米国農務省(USDA)発表によると 10月の主要 23 州の生乳生産量は 767 万 2,600 トンで前年同月比 1.0% 増となった。主要 23 州における 10 月の一頭当たりの平均搾乳量は約 878 キロで前年同月を約 9.1 キロ上回り、2003 年に統計データを取り始めて以来、10 月単月の数字としては過去最高となった。

主要 23 州における 10 月の合計乳牛頭数は 872 万頭と発表され、前年同月比 8 千頭減、前月比 1 千頭減となった。

2018年月10主要州別生乳生産量(前年同月比)

カルフォルニア州	1,526,348トン	+3.2%	(+46,762トン)
ウイスコンシン州	1,153,160トン	-0.3%	(-3,632トン)
ニューヨーク州	566,592トン	+1.0%	(+5,448トン)
アイダホ州	568,862トン	+2.1%	(+11,804トン)
テキサス州	474,884トン	+7.5%	(+33,142トン)
ミシガン州	420,404トン	-1.0%	(-4,086トン)
ペンシルバニア州	389,986トン	-3.8%	(-15,436トン)
ミネソタ州	369,556トン	-0.5%	(-1,816トン)
ニューメキシコ州	299,186トン	+0.2%	(+454トン)
ワシントン州	254,694トン	+2.6%	(+6,356トン)

2018年月9米国産主要乳製品生産量

バター	60,995トン	前年同月比	-0.1%	前月比	+0.3%
チーズ	479,736トン	前年同月比	+3.1%	前月比	-2.0%
(うちアメリカンチーズタイプ)	190,391トン	前年同月比	+3.9%	前月比	-1.7%
(うちイタリアンチーズタイプ)	204,842トン	前年同月比	+4.3%	前月比	-1.1%
NFDM(食用)	48,264トン	前年同月比	-21.0%	前月比	-13.4%
SMP	22,104トン	前年同月比	+67.3%	前月比	+2.4%
ホエイパウダー	32,383トン	前年同月比	-21.9%	前月比	-9.7%
WPC	19,178トン	前年同月比	+9.1%	前月比	+1.1%
乳糖(食用、餌用)	39,916トン	前年同月比	-7.4%	前月比	-6.8%

2018年9月末米国産主要乳製品在庫量

バター	128,516トン	前年同月比	+10.6%	前月比	-2.7%
チーズ	620,330トン	前年同月比	+4.5%	前月比	+0.6%
(うちアメリカンチーズタイプ)	359,749トン	前年同月比	+1.5%	前月比	+0.8%
NFDM(食用)	119,010トン	前年同月比	-18.3%	前月比	-6.7%
ホエイパウダー	31,512トン	前年同月比	-35.6%	前月比	-5.3%
WPC	26,625トン	前年同月比	-18.2%	前月比	-4.3%
乳糖(食用、餌用)	38,334トン	前年同月比	-44.8%	前月比	-5.1%

2018年9月末バター、チーズ在庫量

バター	104,739トン	前年同月比	+5.5%	前月比	-18.5%
チーズ	623,123トン	前年同月比	+8.2%	前月比	-0.4%
(うちアメリカンチーズタイプ)	369,463トン	前年同月比	+9.9%	前月比	+1.2%

(為替レート USD=¥113.00 を使用)

<ロサンゼルス駐在 Lacto USA Inc. 佐藤>

■ 出典

AGRA EUROPE 各誌
Daily Dairy Report
Dairy Industry Newsletter
農畜産業振興機構“畜産の情報”
AMS Dairy Market News
日刊酪農乳業速報
Rice Dairy
NZ Herald
Stuff.co.nz
食品産業網
Weeklytimes
USDEC Export Trade Data
Global Trade Information Service
USDA's Dairy Market News
Australian Financial Review
食品産業サイト
経済日報
東方ネット
長三角乳業

1. 株式会社ラクト・ジャパン(以下「当社」といいます。)は、「乳製品情報」(以下「当資料」といいます。)に記載されている情報については相応の注意を払っておりますが、その内容の完全性、正確性、適切性等について、いかなる保証も行うものではありません。そのため、当社は、当資料に記載されている情報・資料を利用するなどの、利用者の行為に関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。また、当記事に記載されている情報には、第三者が提供しているものが含まれていますが、当社は、その内容の正確性等については一切の責任を負いかねますので、予めご了承ください。

2. 当社は、事前に予告することなく、当記事の内容を変更等することがありますが、それに関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。

3. 当社の許可なく当該情報の一部または全体を転載、二次使用すること、ならびに当該お客様以外に開示することは固くお断りいたします。

作 成 : 株式会社ラクト・ジャパン
編 集 : 乳製品情報編集部
問合せ先 : webmaster@lacto-japan.com